

柿崎光雄

ジャンルは違っても、仕事はその人の自己表現の手段でもあり、生きていることの証でもあるはずだ。様々な仕事に携わる人々の喜びと生き甲斐を紹介するシリーズ。



デザイナーのイメージをいかに具象化するかカメラマンとして問われる資質のひとつだ

カメラとの最初の出会いは中学校1年の時。父親から古いカメラをもらったのがきっかけ。以来、自分で現像を手がけるなど趣味のひとつとして写真を楽しんで来たが、ファッションカメラマンの藤井秀樹氏の作品に感動。家族や周囲の大反対を押し切り「自分もこんな写真を撮りたい」と、カメラマンになる道を選択する。

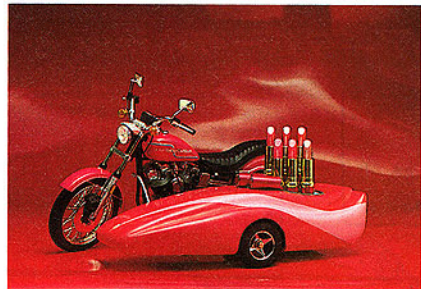
が、写真を勉強するほどに厳しい現実を知る。こととなる。専門学校卒業後、都内の有名写真スタジオに就職はしたものの、この業界は職人にも似た徒弟制度が残る世界。上下関係は厳しく労働条件も極めて過酷。技術・知識に劣るものはスタジオに入ることもすら許されない。しかも、修行の身とあって給料はごくわずか。思わず挫折しそうになりつつも、自分自身を奮い立たせ目標に向かって粉骨砕身の日々が続いたのであった。

「まさに想像を絶する世界ですよ。でも、カメラマンを目指す者にとってはそれが当たり前だったんです。確かに苦しかったですけど、撮影に立

ち会えることより多彩な撮影方法を覚えることにつながりますからね。流行の最先端に行くカメラマン達の撮影現場に接することで、そのテクニックを自分のモノにしていっていいんです。当時は、そういうやって皆ステップアップしていったんですよ」と柿崎さん。

その努力のいかにもあり、スタジオの顧客の一人であったカメラマンにスカウトされ、チーフアシスタントに抜擢される。当時のトップアイドル＆大物芸能人のポスター、レコードジャケット撮影の背景設定やイメージづくりを任せられるなど、カメラマンとしての才能を開花させるキッカケをつかむこととなる。そして柿崎さん24歳の時、代理店の契約カメラマンとして一人立ちを果たすこととなり、全国、海外での撮影を経験を重ねるようになる。さらに、約3ヶ月間のアメリカ放浪旅行を機にフリーとして独立。作風の幅も広がり、若手実力派として将来を嘱望されるカメラマンとして注目される。同時に、帝人パピリオ（化粧品）、ハツシバパピリオ（ビューティ）など、日本を代表する企業のコマースシャル撮影、特に新商品の撮影を数多く手がけることとなる。

その後、柿崎さんは事情により昭和56年に秋田に戻るが、今も写真にける熱き思いは東京時代にそのまます。確かに、クライアント数、予算、スタッフ…。あらゆる意味で、地方のコマースシャルカメラマンにはハンディがある。仕事の流れも、求められる要素の質・量にも大きな違いがある。さらに、予算がかさむ大きな仕事などは「今回この撮影は仙台、東京からカメラマンを派遣しますから」ということがある。このようにともすれば、



東京時代に手がけた化粧品メーカーの写真。雰囲気づくりから演出方法に至るまでカメラマンに求められる要素は膨大なものに及び

地方のカメラマンは地方にいるということだけで、軽んじて見られてしまうことがある。でも、実際はそんなことはない。たまたま、居住地が地方なだけであって日々の仕事、カメラマンとしての心構えは何ら変わりはないはず。限られた条件の中だからこそ、よりレベルアップされた感性やテクニックを学ぶ努力をする人、優れた特殊技術を持つ人など、地方だからこそ優れたカメラマンがたくさんいることをもって欲しいと思います」と柿崎さん。

現在はスタジオを構える県南地区を中心に、酒造メーカー、ホテル、会社案内、市町村要覧など、あらゆるジャンルの撮影を幅広く手がけている柿崎さん。ストロボ撮影全盛の時代にあつて、タンダグスライイトによる撮影にもこだわりたいという職人気質を垣間見せるのも、スタジオ時代に実績を重ねた柿崎さんならではの。コマースシャルカメラマンとしてシャッターを切つて約30年。この間に蓄積されたテクニックが今も随所に活かされる「柿崎さんでなくては」とのクライアントからの指名も多いのだ。

「常に新しいことを提案し、挑戦し続けてゆきたい」
県内の業界に新風を吹き込んだ熱き心の持ち主

プロフィール

かきざきみつお 昭和25年6月18日、平鹿郡十文字町生まれ。昭和43年県立湯沢高校卒業後、東京写真専門学校（現・ビジュアルアート）に入学。同校卒業後、都内の写真スタジオを経てカメラマンアシスタントを経験。22歳の時、からだを壊し静養のために帰省するも、約一年後に上京、再びスタジオマンとして都内の貸しスタジオに就職。24歳の時、西武系企業を担当する広告代理店にスカウトされ、全国各地の西武デパート、西友等の撮影を手がける。26歳の時に渡米し放浪の旅を経験。帰国後、フリーカメラマンとして独立。精力的に活躍するが、家庭の事情で昭和56年に帰省。フォトショップ&写真館を兼ねた「スタジオ光」を設立。現在に至る。

●スタジオ光 平鹿郡十文字町西原1-16
TEL0182-42-4100



AAPA 秋田県広告写真家協会

事務局/TEL0185-55-1466 (クリエイティブフォトライブ)

- | | | | | | |
|-------|------|------|------|------|------|
| 小阪満夫 | 佐藤勝彦 | 菅原正寿 | 横野良孝 | 四倉弘幸 | 柿崎光雄 |
| 小松ひとみ | 佐藤 勉 | 袴田芳彦 | 三船 博 | 米屋健吾 | 熊地光由 |
| 桜庭文男 | 澤口 登 | 菅田慎一 | 山本建治 | | |